



【学校教育目標】

- 1 真理を求め、自己の確立に努力する人 2 心身共に健康で明朗な人 3 他と協力し、自主的・創造的な人

豊かな人間性
《平野と広く生きよう》

- ◎豊かな心の育成と潤いのある学校文化の創出
- ◎情報化社会に対応した情報活用能力の育成

健康・体力
《川と強く生きよう》

- ◎心と体の健康づくり
- ◎自らの健康に目を向けさせる健康教育の推進

資質・能力の育成
《山と高く生きよう》

- ◎確かな学力を育み学習指導の充実
- ◎社会で活躍できる人材の育成

何ができるようになるか
○学校教育の基本

- ◆将来の目標について、主体的に考えることができる。
- ◆社会の変化に対応し、他者と協働的に学習を行い、考えを深めることができる。
- ◆自己の目標に向けて、努力することができる。

何が身に付いたか
○学習評価を通じた学習指導の改善

- ◆課題解決に向けて、主体的に考える態度が身につく。
- ◆他者の考えも聞き入れながら、考えを深め合い、協働的に課題解決を図る力が身につく。
- ◆計画—実行—反省のサイクルにより、目標に向けての実践を継続する力が身につく。

生徒の実態

- ◇純朴で素直である。自主性に欠け、理性的判断力に欠ける面も見られる。
- ◇授業への取り組み姿勢が改善されてきているが、基本的な学習意欲の向上が必要である。

子供の発達をどのように支援するか
○配慮を必要とする子供への指導

- 一人一人の生徒に寄り添う指導を推進する。
 - ・生活アンケートの実施と教育相談による支援を進める。
 - ・あすなろ会（支援会議）による情報共有と支援体制を構築する。

目指す生徒の姿

- ◇基本的な生活習慣が身に付いており、主体的に考え自主的に行動できる。
- ◇主体的に考え、他者との関わりや体験の中で学びを深める。
- ◇学びを生活の中で生かす。

何を学ぶか
○教育課程の編成

- いわての復興教育プログラムに基づいた計画を行う。
- 視野を広げ、生き方を学ぶ体験の充実させる。
- 集中して授業を進められるよう、授業改善を図る。
- 「確かな学力育成プラン」の共通理解と実践を進める。
- 家庭学習の充実と習慣化を図る。
- 特別な支援を要する生徒への適切な指導と実践を進める。

どのように学ぶか
○教育課程の実施

- 副読本の活用と3つの教育的価値をバランスよく実施する。
- 出前授業や講話・講演会を計画的に実施する。
- 「いわての授業づくり3つの視点（改訂版）」による授業改善、ICT教育の推進を図る。
- 諸調査結果の分析を行い、活用を図る。
- 授業と連動した家庭学習課題や学年で統一した家庭学習課題の取り組みを進める。
- 教職員間の共通理解を図り、保護者との連携を進める。

実施するために何が必要か <指導体制の充実、家庭、地域との連携・協働>

- 校内研究の推進（全体研究会・教科毎研修）
- 学級・学年経営の充実（人間関係づくり、コミュニケーションスキル、係活動の活性化）
- いじめ防止基本方針の共通理解と組織対応
- 生徒理解のためのアンケートの実施と教育相談
- 学区内小中連携事業の推進（わがタイム、授業参観、情報交換）
- PTAと連携した講演会の実施
- SC、SSWとの連携した支援体制の構築

《安心・安全を守る》

- ・ 毎月の安全点検
- ・ 交通安全教室の実施
- ・ 情報モラル教室の開催
- ・ 定期的な避難訓練の実施

《開かれた学校づくり》

- ・ 学校運営協議会の開催
- ・ 地域学校協働活動の推進
- ・ 学校行事の公開
- ・ 校報やHPによる情報発信